

PAT-NO: JP356151759A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 56151759 A
TITLE: ASPHALT MIXTURE FOR TERMITE CONTROL
PUBN-DATE: November 24, 1981

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

HORI, SOICHI

SUZUKI, YOSHIAKI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

NIPPON HODO CO LTD

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP55054694

APPL-DATE: April 24, 1980

INT-CL (IPC): C08L095/00

US-CL-CURRENT: 106/15.05, 106/273.1

ABSTRACT:

PURPOSE: To prepare the titled mixture having improved moisture-proofing effect and capable of preventing the hazard of termite, by compounding a termite-controlling agent in an asphalt mixture.

CONSTITUTION: 0.01~2wt% Of a termite-controlling agent is added and mixed to an asphalt mixture with or without heating. Paving of the ground under the floor of a building or around the building with the asphalt mixture not only prevents the damage of the building by moisture and improves the

comfortableness of the building, but also prevents the intrusion of termite into the building and exhibits the termite-killing effect.

COPYRIGHT: (C)1981,JPO&Japio

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56—151759

⑬ Int. Cl.³
C 08 L 95/00

識別記号
1 0 1

庁内整理番号
7342—4 J

⑭ 公開 昭和56年(1981)11月24日

発明の数 1
審査請求 有

(全 4 頁)

⑮ 防シロアリ用アスファルト混合物

⑯ 発明者 鈴木義昭

東京都中央区京橋 1 丁目 19 番 11
号日本鋪道株式会社内

⑰ 特 願 昭55—54694

⑱ 出 願 昭55(1980)4月24日

⑲ 出 願 人 日本鋪道株式会社

㉑ 発明者 堀惣一

東京都中央区京橋 1 丁目 19 番 11
号

東京都中央区京橋 1 丁目 19 番 11
号日本鋪道株式会社内

㉒ 代理人 弁理士 志賀正武

明 細 書

1. 発明の名称

防シロアリ用アスファルト混合物

2. 特許請求の範囲

(1) 常温または加熱アスファルト混合物に対して、
0.001～2重量%のシロアリ防除薬剤を添加し
たことを特徴とする防シロアリ用アスファルト混
合物。

(2) 上記シロアリ防除薬剤として、有機塩素系、有
機リン系、カーバメイト系、有機スズ系、ホウ素
系、クロルフェノール系、砒素系、クロルナフタ
リン系、ジクロルベンゼン系、有機フッ素系、黄
リン系、タバコ系、除虫菊系、デリス系防虫殺虫
剤のいずれか／種以上を用いることを特徴とする
特許請求の範囲第1項記載の防シロアリ用アスフ
アルト混合物。

3. 発明の詳細な説明

本発明は常温または加熱アスファルト混合物に
シロアリ防除薬剤を添加混合してなる防シロアリ

用アスファルト混合物に関するものである。

一般的に、シロアリはその習性として、土壌表
面下約30cmの深さの所に営巣し、土壌中に軌道
を構築しながら床下基礎より侵入し食餌となる木
部を食害する。またシロアリの被害の起りやすい
場所は、比較的日当りの悪い、湿気の多い、しか
も割合暖かい所である。建物であれば風呂場、台
所、洗面所、便所の他雨漏りのある箇所、吹き降
りのかかる軒下などが被害を受けやすい場所であ
る。

一方、一般的な建物のシロアリ防除法は、防除
薬剤による木部基礎に対する浸漬、塗布、吹付お
よび穿孔等による木部処理と建物の基礎内外およ
び東石周囲などの床下の土壌処理の2つの方法に
より行なわれている。しかし土壌処理による方法
は、シロアリに対する防除には有効であるが、建
物の防湿効果は望めない。また土間コンクリート
による処置は土壌より防湿効果は認められるが、
アスファルト舗装ほど効果なく、また土間コンク
リート自体も食害されるためシロアリの防除には

(1)

(2)

完全といえない。

本発明は従来のこのような問題点を解決するためになされたもので、建物の床下や周辺または電線ケーブルを保管するトラフ内に舗設あるいは埋設することにより、防湿効果を上げるだけでなくシロアリの被害を防除し得るようにした防シロアリ用アスファルト混合物を提供することを目的とする。

以下、本発明について詳細に説明する。本発明は常温または加熱アスファルト混合物の製造時または施工時に、上記混合物に対して0.001~2重量%のシロアリ防除薬剤を添加混合してなるものである。

本発明に用いられるアスファルト混合物としては、骨材と締結材とからなる、一般の道路や構内の舗装に使用されている加熱アスファルト混合物や常温混合方式によるアスファルト乳剤混合物およびカットバックアスファルト混合物などがある。

また、防除薬剤としては、有機塩素系、有機リン系、カルバメート系、有機スズ系、ホウ素系、

(3)

骨材中のファイラーに粉剤を添加する方法、このほか、すでに製造され保存されている長期保存型常温混合物に油剤や粉剤に製剤化したものを別途添加し、混合装置により混合・被覆するような二次加工も可能である。また現場に敷きならした一般のアスファルト混合物の上から薬材を散布混合する方法もある。

以下、実施例を示し、本発明を具体的に説明する。

[実施例 1]

アスファルト舗装要綱に示された密粒度アスコン(4)の標準配合に適するように配合した表-1の配合骨材を170℃に加熱する。一方150℃に加熱溶融した針入度60-80ストレートアスファルトに2%のクロルデンを添加し、当バインダーを上記配合骨材に対し6%加えた防シロアリ用密粒アスファルトコンクリートを製造した。本アスファルトコンクリートを一般家屋の床下及び周辺に舗設したところ、長期間にわたり、シロアリの害をうけることがなかった。また、床下はよく

(6)

クロルフェノール系、砒素系、クロルナフタリン系、ジクロルベルゼン系、有機フッ素系、黄リン系、タバコ系、除虫菊系、デリス系、の殺虫・防虫薬剤の1種以上が選択され、その添加量は上記混合物に対して0.001~2重量%であり、その効果と経済性によつて上記範囲内で適宜決められる。なお、上記添加量は薬剤の有効成分計で表示してある。薬剤の混入形態は薬剤有効成分単独か、あるいは適切な希釈剤、溶剤、乳化剤、増量剤などにより油剤状、乳剤状あるいは粉剤状に製剤したものが用いられる。

上記薬剤のアスファルト混合物への混合方法については、例えば加熱溶融したアスファルト等の締結材に添加し、これを骨材に加える方法、あるいは、常温アスファルト混合物の長期保存性、作業性を与える目的で軽成分油剤が用いられるが、この軽成分油剤に上記薬剤を添加し、常温アスファルト混合物に吹きもける方法、あるいは、アスファルト乳剤に直接乳剤タイプの薬剤を添加し、このアスファルト乳剤を用いる方法、あるいは、

(4)

乾燥していた。

表-1 骨材配合

6号砕石	31%
7号砕石	26%
粗砂	27%
細砂	0%
ファイラー	7%

[実施例 2]

簡易舗装要綱に示された常温混合式工法のカットバックアスファルト混合物の標準配合に適するように配合した表-2の配合骨材を110℃に加熱する。一方70℃に加熱したカットバックアスファルトMC800に2%のクロルデンを添加し、当バインダーを上記配合骨材に対し6.5%加えた防シロアリ用常温混合物を製造した。本混合物を材木店の床に舗装したところ、長期間にわたつてシロアリの害をうけることがなかった。また床面はよく乾燥していた。

(6)

表-2 骨材配合

6号砕石	32%
7号砕石	19%
粗 砂	24%
細 砂	19%
ファイラー	6%

〔実施例3〕

カットバックアスファルトを使用して常温混合物を製造する際、特許第820104号および特許第598811号で使用されているような軽成分油剤をカットバックアスファルトで被覆されている骨材の表面にさらに被覆することによつて、常温混合物に長期保存性や作業性および供用後の安定性を与えることが可能となる。

本実施例は、実施例2と同一の骨材配合および加熱温度のもとに、70℃に加温したカットバックアスファルトMC800を5.7%加え混合し、さらに特許第598811号で使用した軽成分油

(7)

〔実施例5〕

実施例2の骨材配合のうち、ファイラー分の一部をクロルデン成分3%含有した鉱物粉末剤におきかえた表-4の配合骨材を110℃に加熱し、70℃に加温したカットバックアスファルトMC800を5.7%加え混合し、さらに特許第598811号で使用した軽成分油剤を0.6%噴射吹付けた防シロアリ用長期保存型常温混合物を製造した。本混合物を、材木店の床に舗設したところ、長期間にわたつて、シロアリの害をうけることがなかった。また、床面はよく乾燥していた。

表-4 骨材配合

6号砕石	32%
7号砕石	19%
粗 砂	24%
細 砂	19%
ファイラー	5%
クロルデン3% 鉱物粉末剤	1%

(9)

剤に2%のクロルデンを混入した油剤を上記混合物に対し0.6%噴射吹付けた長期保存型の防シロアリ用常温混合物を製造した。本混合物を一般家屋の床下とその周囲に舗装したところ、長期間にわたつて、シロアリ^の害をうけることがなかった。また床下はよく乾燥していた。

〔実施例4〕

舗装用石油アスファルト乳剤MK-2に40%濃度のクロルデン乳剤0.75%混入した瀝青材料を簡易舗装要綱に示された常温混合工法の粗粒型アスファルト乳剤混合物の標準配合に適するように配合した表-3の配合骨材（骨材含水比3%）に8%加えた防シロアリ用常温混合物を製造した。本混合物を電線ケーブルのトラフに舗設したところ、長期間にわたつて、シロアリの害をうけることがなかった。表-3 骨材配合

5号砕石	20%
6号砕石	20%
7号砕石	20%
粗 砂	20%
細 砂	20%

(8)

以上の結果から、本発明による防シロアリ用アスファルト混合物は防湿およびシロアリに対する防除を兼ねそなえたもので、本防シロアリ用アスファルト混合物を建物の床下や周辺に舗設することにより、湿気からくる建物の損傷防止や居住性を良くするとともに、シロアリの侵入を防ぎ、殺蟻する効果を有するものである。

出願人 日本舗道株式会社

代理人 弁理士 志 賀 正 武



手続補正書 (自発)

適

55.5.27
昭和 年 月 日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

昭和 55 年 特許願第 54604 号

2. 発明の名称

防シロアリ用アスファルト混合物

3. 補正をする者

特許出願人

日本舗道株式会社

4. 代理人

〒104 東京都中央区八重洲2丁目1番5号 東京駅前ビル内
~~東京都中央区八重洲4丁目1番地 東京駅前ビル6階~~

弁理士 (6490) 志賀正武



5. 補正の対象

(1) 明細書の「発明の詳細な説明」の欄。

6. 補正の内容

(1) 明細書を次表のとおり補正する。

補正箇所	誤	正
第2頁第3行目	管 榮 し	管 巢 し
第2頁第4行目	槽 第	槽 第
第3頁第20行目	カルバメート系	カーバメイト系
第4頁第2行目	ジクロルベルゼン系	ジクロルベンゼン系
第4頁第13行目	加 熱 溶 融	加 熱 溶 融
第4頁第18行目	吹きもける	吹きつける
第5頁第6行目	薬 材	薬 劑

(1)



(2)